

## ホームページをリニューアルしました

今年度から、ホームページの見直し・リニューアルを行っています。情報を整理し、シンプルでわかりやすい構成に変更し、情報にアクセスしやすくするため、新たなページを設けました。

### ホームページをリニューアル！



#### アイコンを変更しました

項目を再編成し、シンプルなアイコンに変更しました。

#### 開催中の展覧会アイコンを設置しました

トップページで開催中の展覧会がわかるように、展覧会アイコンを設置しました。アイコンをクリックすると、展覧会のページに移動できます。

#### 休館日カレンダーが新しくなりました

休館日が一目でわかるカレンダーをトップページに配置しました。

#### 1ヶ月の催し物をまとめました

月ごとに、開催中の展覧会、講座・講演会、貸会場のイベント情報、ウィークリーミュージアムガイドのスケジュールをまとめています。

よりよいホームページを目指して、今後もリニューアルを行う予定です。

#### そのほかこんな広報やってます

黎明館では、ホームページのほかにX・Instagram・FacebookのSNSアカウントで情報発信を行っています。展示替えや黎明館の風景、季節の便りなど、写真を中心に更新しています。また、講演会や講座の申し込みや、貸会場イベントの開催情報なども発信しています。



@official\_reimei



@official\_reimei



@reimeikan



## 赤い線が手がかりに

黎明館の前に堂々とそびえ立つ御楼門。

復元されたのが令和2(2020)年3月で、今年5周年を迎えました。

今回は復元される手がかりのひとつになった「礎石」について述べていこうと思います。



鏡柱に注目！



「礎石」とは柱を支える土台となる石です。御楼門にはこの礎石が18カ所あります。特に御楼門橋に近い中央の礎石のいくつかには、発掘調査で礎石表面に柱の大きさに沿った赤い線が付着していることがわかりました。これは明治6(1873)年の火災(当時は鹿児島城としての機能を終え熊本鎮台第二分営として利用されていた)の時に御楼門が焼失。その際の高熱による焼け跡と考えられています。赤い色を見ると火災のすさまじさを感じます。御楼門の復元にはこの赤い線が手がかりの一つとなりました。

中央前方の礎石では縦横90cmの赤い線が正方形で残っています。これで鏡柱(門の正面の両側にある太い柱)の縦横の大きさを割り出すことができました。その横の礎石表面の赤い線は縦横70cmで、脇柱の大きさもわかりました。柱の大きさがわかれば、楼門の高さも横幅も古写真との比較から割り出すことができます。これと同時に石垣と御楼門の大きさの比較から高さ20m、幅約20mという大きさを導き出すことができたのです。

このように「史実」「古写真」「発掘調査」に基づき、御楼門は復元されました。



専門員 菅牟田勉(鹿児島城担当)

## 黎明館のフカホリ 18

第七高等学校造士館ゆかりの植物

### リュウゼツラン (竜舌蘭)

リュウゼツラン科の大型植物で、別名はアガベ。葉はアロエのように多肉質で鋭いとげがあり、1~2mもの長さがあります。花はめったに咲かず、30~50年に一度とも言われています。

鹿児島城本丸跡にあった七高造士館の敷地の所々にリュウゼツランがあり、学生達に愛でられていました。現在のリュウゼツランは、その芽株を七高卒業生の間で引き継ぎ、昭和58(1983)年に植樹したものです。



平成25(2013)年夏に開花。  
次の開花がいつになるのか楽しみです。

## 27年ぶりに 鹿児島県の外へ

九州国立博物館で開催された「九州国立博物館開館20周年記念特別展 九州の国宝 きゅーはくのたから」(会期：令和7年7月5日~8月31日)に黎明館保管の国宝「太刀：銘 国宗」(照国神社蔵)が出陳されました。

